

マレーシアで開催された第48回APBF選手権にジュニア(26歳未満の部)代表として参加しました。僕は、高校1年生の頃にブリッジを始め、APBF選手権のヤングスター(21歳未満の部)代表で3回参加したことがあり、今回で4回目の参加です。

大会は6月15日から24日の間、マレーシアの首都クアラルンプールで開催されました。13日夜に日本を出発、14日朝に到着し、試合スタートは15日の午後からでした。初日の昼は開会式を兼ねて、アジア各国の代表全員でのレセプションがありましたが、僕は緊張してあまりご飯が進みませんでした。21歳未満の部では何回も国際大会の舞台を踏みましたが、チームが最下位を脱出できたことはなかったからです。今大会は2歳年上の東大ブリッジクラブの先輩と初めて組んだので、スタイルのすり合わせや、オークションでの細かい取り決めなどを一生懸命覚えましたが、国内の練習試合では結果が出なかったからかもしれません。またユースの試合には年齢制限があり、僕は制限の年齢を越えてしまって出られなくなった上手な先輩の代わりに今回のジュニアチームに選出されたので、昨年以上の結果は出せないかもしれないと思っていました。

予選は、ジュニア・ヤングスター合わせての総当たり戦でした。最初の対戦相手は日本のヤングスターです。慶應や早稲田の部室でいつも練習している後輩との試合だったので、負けるわけにはいきません。結果25VPを獲得して上々の滑り出しでした。

ヤングスターとの試合が続きます。中国、台北、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシアなど、全て勝ちました。昨年とは違う手応えを感じていました。そして半分ほど終わった時点で日本・中国・シンガポールが同率1位で並びました！僕がブリッジを始める前、6年前の韓国でのPABF選手権では、前半首位で折り返して総合でも優勝したので、選手の期待が高まります。

予選前半終了後、データムが発表されました。この時僕のペアは全体で1位でした！長い名前リストの1番上にいた時は感激しました。大会前、日本でどのペアよりもたくさん練習したので、それが結果として現れたのだと思いました。

後半最初の試合は中国ジュニアとの対戦で、BBO中継です。僕たち日本ペアは試合開始のずいぶん前に別室に入ったので、余計に緊張してしまいました。ギリギリにやってきた中国ペアがとても上手そうに見えたのを覚えています。しっかり握手してゲームスタート。相手にできない7♦をビッドさせたり、僕たちがスラムルーズしたり、オポーネントの5♣ダブルが4ダウンしたりとスリリングな展開となりました。序盤から優勢が続いたのですが、最後のボードで僕が5♦をオポーネントに作らせてしまったので結果はちょい負けでしたが、スリリングなハンドが多くて面白かったです。

後半になり、少しずつスコアが落ちてきます。疲れからか、中国戦(再戦)、オーストラリア戦でミスを繰り返してしまい、首位シンガポールとの差がどんどん開いていきます。ラスト前での順位は、シンガポールがちょっと抜きで1位、2位中国、3位日本、4位のオーストラリアが少しずつ離れてならんでいました。

APBF選手権には2つ、意味のある順位があります。1つはオーストラリアとニュージーランドをのぞいた中での3位。これを達成すると来年に行われる世界ユース選手権への切符を掴むことができます。もう1つは全参加国の中での3位。全体で3位に入ると表彰台に乗って、メダルをもらう事ができます。この時点で世界ユース選手権への参加権は手に入りそうだったので、表彰台に登れるようにしたい。日本は6年前の韓国大会以来、表彰台から遠ざかっていたので、なんとしてもオーストラリアを抑えたい。最後の相手は台北で、僕はこの大事なゲームに出場しました。

最初の2ボードでリード一発のスラムとゲームをオポーンに作らせてしまい、冷や汗が流れます。しかし僕のパートナーが大活躍して、本当は落ちる3♦ダブルやできない3NTをうまく作って取り返してくれました。

試合会場を出ると、すでにオーストラリアはスコアが出ていて、日本は14VPあれば総合成績3位とのことでした。チームメイトとのスコア合わせの結果、案の定リードをはずしたゲームとスラムは大きく取られましたが、こちらも取り返しています。日本は15VPを獲得し、すれすれながらも表彰台を勝ち取りました。

24日の夜に表彰パーティーがあり、僕たちは壇上に登って銅メダルを授与されました。その後いろんなチームの人と握手をし、写真を撮り、語り合いました。彼らとはメールアドレスやFacebookのアカウントを交換し合い、連絡を取り合っています。BBOで遊ぼうとも誘われました。今まではブリッジそのものの面白さを素晴らしいと思い夢中になっていましたが、今は例えば言葉が通じない、知らない人とでも、ブリッジテーブルでの対戦を通じて仲良くなれるのがいいところだと思います。

マレーシアでデータム1位をとり、チームも3位になることができたのは大きな自信になりました。例えば数えきれないほどの学生がブリッジをしているインドネシアなど諸外国と比べ、それほどブリッジが盛んでない日本でも、ちゃんと練習すれば国際大会でも良い成績をとれることがわかったからです。高校生の時初めて参加した4年前のバンドン大会や、一昨年のマカオ、昨年のニュージーランドでの大会に比べ、技術的にも精神的にも向上しました。これは僕一人の努力によるものだけではありません。練習会や強化試合を企画してくださるブリッジ連盟のユース育成プロジェクトや、先生として技術的な質問に答えてくれたり、個人的にも遊んでくれたユースOBの諸先輩方など、ブリッジをする学生をとりまく素晴らしい環境によるところが大きいと思います。